

● スキャニング+推測+背景的知識を活用した指導法

① 問題文の内容語をハイライトさせる。

Where was Tommy? 答: He is in a bathroom.

What happened to the book? 答: He dropped it into a bathtub.

② 授業でハイライトした内容語を見ながら、音声を聞かせて解答させる。

② 自宅でハイライトした内容語を見ながら、音声を聞いて解答してくる課題を出す。また、音声を聞いてディクテーションをしてくる課題も出す。聞く回数は5回まで。

⇒ 反転授業の勧め

③ 解答

④ 解説

- 解説を聞く学習者と、解説を必要としない学習者にわけて後者には自習をさせる。
- 間違った学習者に音声のディクテーションをさせる。
- オーディオ・スクリプトを配布または Over Head Camera (書画カメラ)で提示する。

オーディオ・スクリプト-----

Tommy was lying down looking at a reading book. The room was full of steam. Suddenly Tommy got some soap in his eye. He reached wildly for the towel. Then, he heard a splash.

Yuill & Oakhill (1991, p.182)

□ 正答に必要な語である steam soap towel splash が、聞き取れていたかどうかを尋ねる。

⇒ 聞き取れていなかった場合

□ 全ての語が、目で見たら意味や品詞がわかる単語であるのか？

→わかる(音素の識別段階でのつまづき)

原因：文字情報処理能力と音声情報処理能力の乖離

対処法：聞き取ることができなかった内容語をハイライトさせる。次に、ハイライトした内容語を見ながら音声を聞かせる。最後に、何も見ないで音声だけを聞かせる。

→目で見てもわからない単語があった。

原因：リスニング能力の問題ではなく、語彙力不足

対処法：品詞と意味を調べさせる。

⇒ 聞き取れていた場合(文法的区切れ、または話者の意図理解段階でのつまづき)

原因：背景的知識および推測能力が十分でない。

対処法：正答に必要な背景的知識や推測すべき内容を指導する。

